

# 畜産

## 実況

### 1 平成 27 年度第 13 回石川・福井合同肉牛枝肉販売会（平成 27 年 10 月 5 日）

		頭数	単価 (円)	販売価格 (円)	BMS (No.)	枝肉重量 (kg)	ロース芯 面積 (cm <sup>2</sup> )	上物率 (%)
去勢	福井 全体	13	2,710	1,316,098	7.3	485.9	59.5	92
		28	2,846	1,406,918	6.7	494.7	59.0	86
雌	福井 全体	7	2,502	1,080,455	4.8	434.8	53.6	86
		15	2,632	1,109,064	5.1	425.8	55.3	73

最高価格は、1,886,880 円、去勢牛(高洲平茂×安茂勝×北国7の8)、29.5 カ月齢、A-5(BMSNo.10)、枝肉重量 629.8 kg、ロース芯面積 74 cm<sup>2</sup>であり、石川県産であった。枝肉単価は、前回より、去勢で 249 円高く、雌で 157 円高かった。

### 2 平成 27 年度第 14 回石川・福井合同肉牛枝肉販売会（平成 27 年 10 月 19 日）

		頭数	単価 (円)	販売価格 (円)	BMS (No.)	枝肉重量 (kg)	ロース芯 面積 (cm <sup>2</sup> )	上物率 (%)
去勢	福井 全体	16	2,578	1,241,449	7.3	481.3	61.9	88
		32	2,699	1,281,580	7.0	474.5	58.4	84
雌	福井 全体	6	2,414	1,076,619	5.2	444.1	62.0	33
		14	2,623	1,111,588	5.6	422.7	57.6	50

最高価格は、1,579,726 円、去勢牛(安平幸×茂勝栄×茂勝)、26.8 カ月齢、A-4(BMSNo.7)、枝肉重量 526.4 kg、ロース芯面積 54 cm<sup>2</sup>であり、福島県産であった。枝肉単価は前回より、去勢で 132 円安く、雌で 88 円安かった。

## 対策

### 1 乳牛

これから冬期間の飼養管理においては、以下の点について注意する。

#### (1) 換気について

気温が低くなると、保温のために畜舎を密閉することが多くなるが、舎内で発生するアンモニア等の有害ガス・病原微生物やほこりの除去、また、湿度の上昇による結露防止のためにも換気は必要である。畜舎内の温度を 0℃以上に維持しながら、十分な換気を行う。

#### (2) 飼料給与および湿度について

乳牛は寒さには強いが、低温時には給与飼料中の乾物を 10～20%増給することが推奨されているため、良質粗飼料の増給を行う。これは子牛においても同様であり、哺乳中の子牛であれば代用乳やスターターを増給する。また、十分に水を摂取しているかを 1日に数回確認することが大切である。濡れて汚れた牛床は牛のエネルギーロスにつながるとともに、様々な疾病の原因となるので、敷料を十分確保し、快適な状態を保つようにする。子牛においてもカーフハッチ内は常に敷料を追加し、乾燥した状態を保つとともにすきま風の進入を防ぐ。

#### (3) 凍結防止について

冬期間でも乳牛は十分な水の給与が必要なため、給水器の凍結防止に十分心がける。

特に野外のパドックで飼養している場合は、給水管に断熱材を巻くなどの対策を行う。

## 2 肉用牛

牛の飼養管理で、日常の観察は重要である。観察の不十分から、軽い病気を見落とし、重篤に陥るケースもある。

飼料給与時以外にも、朝夕2回観察だけの時間を設けて、以下の点について注意する。

### (1) 濃厚飼料給与時に牛が寄って来るか

牛にとって食欲が無くなる事は、ほとんどの疾病で見られ、一番重要な観察事項である。食いの悪い牛は、汗のかきぐあいや発熱がないか観察する。

### (2) 呼吸はどうか、咳はしていないか

一般に牛の呼吸数は20回/分程度である。異常に多い、荒い音がする、浅い呼吸で舌を出す等の異変がないか注意する。咳をしている場合は、どの様な状態で何回咳をしたか観察する。

### (3) 鼻鏡は湿潤しているか

鼻が乾いていないか、鼻水が出ていないか、また出ていれば鼻水の色などについても注意する。特に鼻水は、すぐに舌で舐めてしまい発見しにくいので、風邪のひきやすい冬期では、朝晩だけでなく日中も観察する。

### (4) 便の状態は良いか

便の状態のほか、その量についても注意する。また下痢をしているのであれば、血液や粘液、不消化物の混入の有無についても観察する。

### (5) 目の状態は良いか

目は潤い、濁っていないか、目やに、眼窩（目玉の下）に落ち込みがないか、眼結膜の充血等について注意する。また、ビタミンA欠乏の場合、瞳孔が開き、異様な輝きをするので肥育牛については注意して観察する。

### (6) 反芻をしているか

最後に、反芻の確認はルーメン内の状態を把握する一番簡単な方法であり、通常では1分間に1回の割合で反芻する。反芻の確認が取りにくい場合は、牛が何らかのストレスを受けているか、粗飼料不足が考えられる。

以上の観察事項のなかで該当する項目があれば、状態の軽い重いに関わらず、獣医師に早めに相談する。